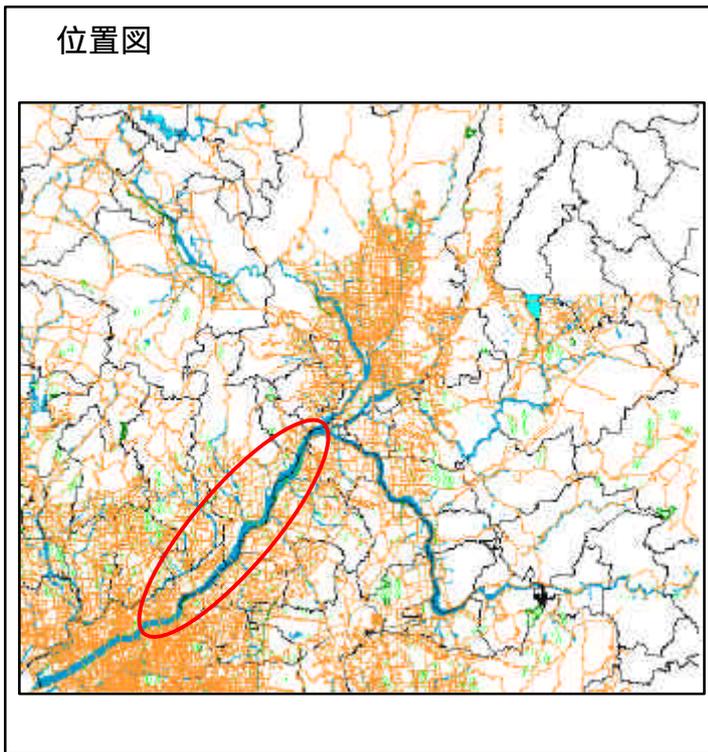


説明資料(第2稿)での記載箇所		章項目	5.3.3	ページ	p.41	行	12行目
事業名	緊急用河川敷道路事業		河川名	淀川			
府 県	大阪府 京都府	市町村	淀川沿川		地先	-	

現状の課題
 兵庫県南部地震時には、建物の崩壊等により陸上交通が混乱し、負傷者の輸送や復旧作業のための資材輸送等に支障を生じたことから、震災時の緊急輸送を目的として淀川の船着場の整備とあわせて、河川敷内に緊急用河川敷道路を整備してきたところであるが、淀川大堰から三川合流点までの区間で連続的に通行できない区間(約5km)がある。

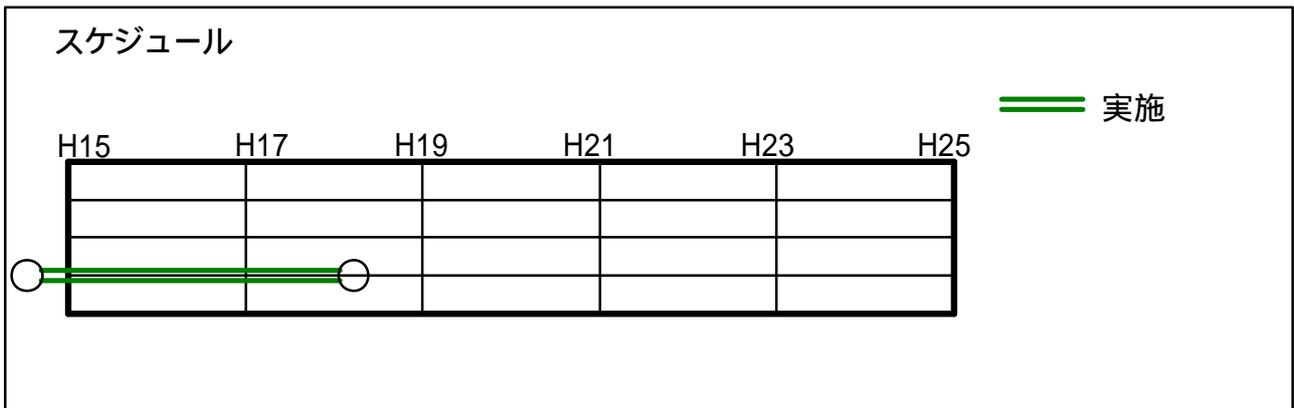
河川整備の方針
 河川管理施設被災時の早期復旧や緊急物資輸送等の手段として緊急用河川敷道路及び船着場の整備を行ってきたが、未整備の箇所については早期に完成させる。



具体的な整備内容
 緊急用河川敷道路
 ・淀川大堰から三川合流点までの区間を連続的に通行できるよう継続実施する。
 整備延長 4.8km

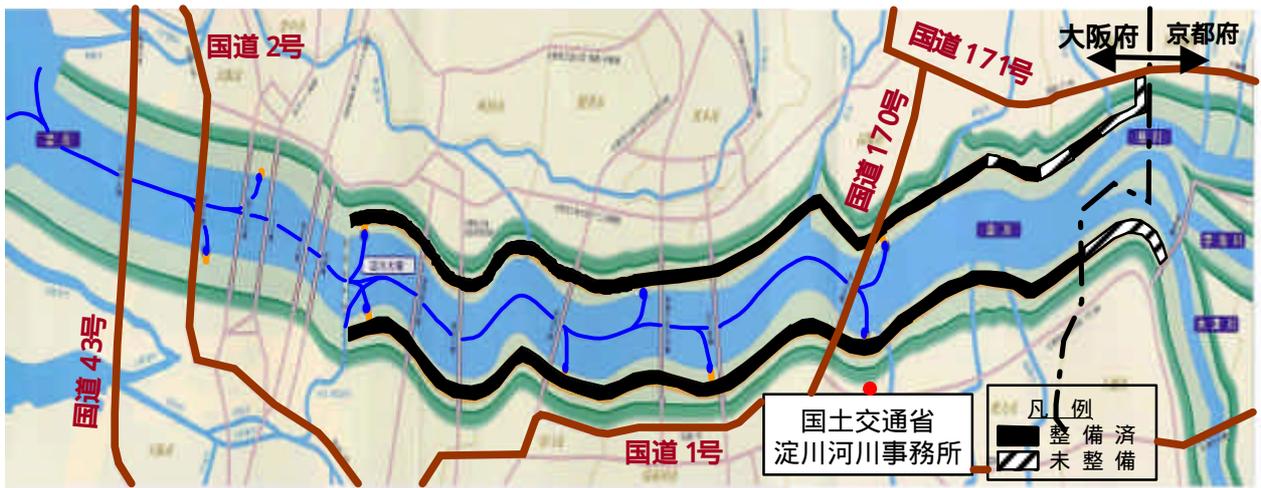
事業の数量・諸元等
 ・全体数量
 延長 約53km
 ・うち整備計画期間内数量
 延長 約5km

事業費
 ・全体事業費 約41億円
 ・うち執行済 約30億円
 ・うち整備計画期間内 約11億円
 ・うち整備計画期間以降 約0円



平面図

緊急用河川敷道路の活用



横断図

緊急用河川敷道路は、高水敷に標準 7mで設置する。



整備効果

緊急用河川敷道路を利用した輸送手段の効果

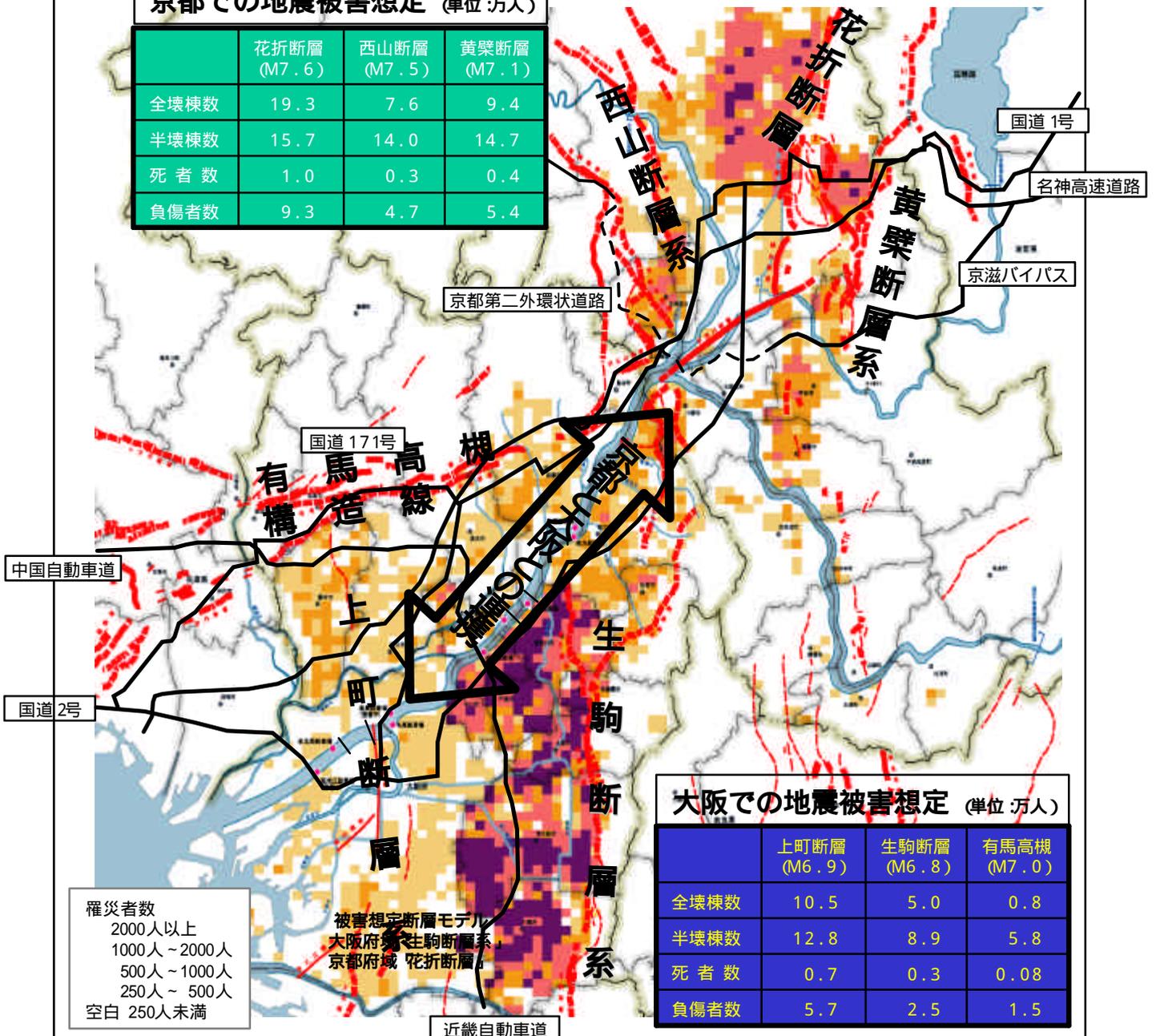
一般道路が混乱しても

大阪と京都とを直接輸送が可能

主要幹線道路との接続により 沿川都市への物資輸送が効率的となる。

京都での地震被害想定 (単位:万人)

	花折断層 (M7.6)	西山断層 (M7.5)	黄檗断層 (M7.1)
全壊棟数	19.3	7.6	9.4
半壊棟数	15.7	14.0	14.7
死者数	1.0	0.3	0.4
負傷者数	9.3	4.7	5.4



大阪での地震被害想定 (単位:万人)

	上町断層 (M6.9)	生駒断層 (M6.8)	有馬高槻 (M7.0)
全壊棟数	10.5	5.0	0.8
半壊棟数	12.8	8.9	5.8
死者数	0.7	0.3	0.08
負傷者数	5.7	2.5	1.5

罹災者数
 2000人以上
 1000人～2000人
 500人～1000人
 250人～500人
 空白 250人未満

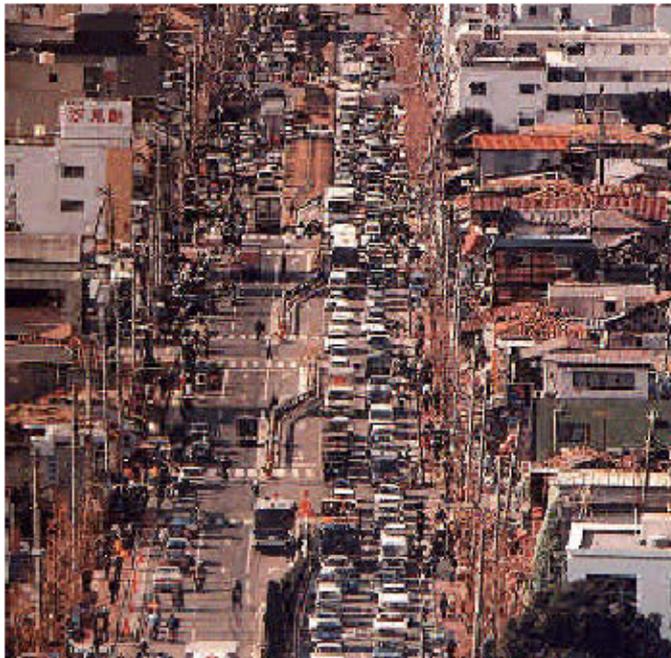
被害想定断層モデル
 大阪府域 生駒断層系
 京都府域 花折断層系

提案理由

兵庫県南部地震の教訓

医療救護、救急救助、物資輸送、代替輸送、避難手段及び緊急輸送路の確保等が大きな課題となった。

船舶による緊急時の人員物資輸送が見直された。



地震災害により交通混乱を起こしている状況



緊急用河川敷道路及び船着場の整備